



幸せ感あふれるバラの香り

パフューマリー・ケミスト 京成バラ園チーフアドバイザー
蓬田勝之さん + 村上敏さん

バラの魅力は咲き誇る姿形の美しさだけにあらず。その香りもまた、美しさを印象づける大切な要素なのだ。知っているようで知らない、バラの香りの世界について、蓬田勝之さんと村上敏さんに聞いた。

男性でも「幸せ」になれます

——まずはそれぞれの立場から、バラの香りの魅力について教えてください。

村上 京成バラ園では野生種（原種）から最新品種まで千五百種一万株のバラを育てていますが、香りは一つひとつすべて違います。目安になるのが花の色合いです。黄色系のバラは柑橘系のさわやかな香り、ピンク系のバラはいわゆるバラっぽい甘く華やかな香り



●むらかみ・さとし 1967年東京都生まれ。京成バラ園芸に入社後、「ミスター・ローズ」と称された故・鈴木省三氏らとともに育種に携わった後、卸、海外窓口、通信販売、商品開発を経て、現在はガーデン部に所属。NHKテレビ「趣味の園芸」の講師も務めている。



●よもぎだ・かつゆき 1947年秋田県生まれ。資生堂リサーチセンター香料開発室参与を経て、2010年から蓬田バラの香り研究所長。世界で初めてバラの香りをタイプ別に分類した香料分析のエキスパート。著書に『薔薇のパルファム』（求龍堂）などがある。

特徴です。その中間色であるアプリコット系のバラは、黄色系とピンク系の香りがバランスよく混ざり、複雑さもありますが香りの広がりもある。バラといっても香りはさまざま。バラ園に足を運んで生花の香りを実際に嗅いでみると、その奥深さに驚くことでしょう。
蓬田 パフューマリー・ケミスト（香りの科学者）とは、育種家と調香師の間に立ち、より科学的な立場からバラの香りの表現を追求して香り作品の可能性を広げるのが役割です。そのため、私はこれまで四十年以上にわたって千種類を超えるバラの香りの要素を研究し、五百以上もの香り成分を解析してきました。

バラに含まれる香氣成分はとても複雑です。現在では香りの九九・九パーセントが解明されていますが、そこまでわかっているにもかかわらず、科学的に香りを再現しても本物のバラの香りには到達できません。まだ解明されていない残り〇・一パーセントの中に、五百種類ぐらいのごく微量な成分が隠されていると考えられているのです。

——バラの香りが奥深く複雑に感じられるのは、未知の成分が香り全体を下支えしているからなのですね。

蓬田 化粧品業界では「香りの研究はバラに始まり、バラに終わる」といわれるほど、バラの香りは魅力的で重要な研究対象です。クレオパトラは毎夜バラの香水風呂に入り、部屋にはバラの花びらを敷き詰めたといわれていますが、まさに「花の女王」と呼ばれるにふさわしい香りを持っていると思います。バラの香りをお身につけると、「女性としての感性のスイッチがオンになる」と言う女性もいるんですよ。

村上 甘い香りや柑橘系、フルーツ系、さわやかなティー系など、香りの種類は多種多様ですが、男性の私

公式サイト・公式 Facebook

かもめの本棚 検索